

# アレヴィーと音楽

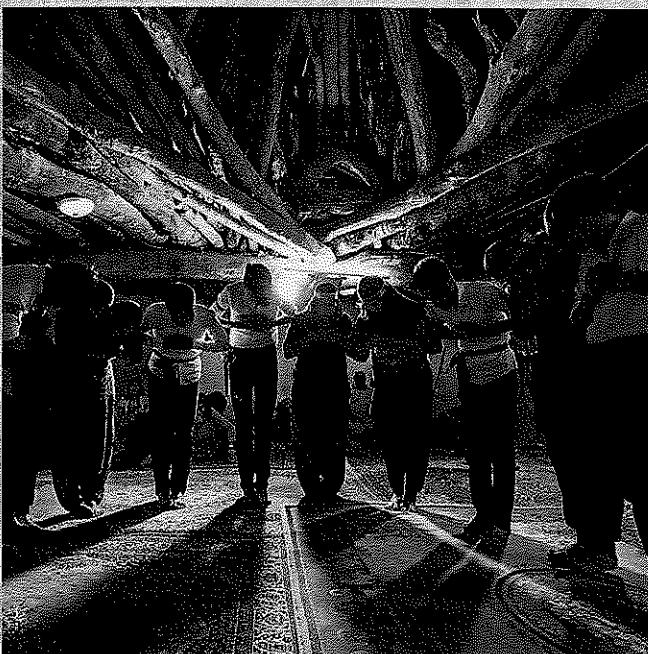
トルコ共和国には、宗教的少数派や少数民族が多く居住している。その中でもアレヴィー(アレヴィー派/教徒)はクルド人同様に人口が多く、トルコ東部や南東部に古くから住み続けてきた。しかし、今日ではイスタンブールなどの大都市に定住する人々も多い。彼らの信仰はトルコの多数派であるスンナ派イスラム教徒とは異なるゆえに、長く迫害されてきた。そうした中でも、アレヴィーのアーシュク(吟遊詩人)たちは信仰や集団の苦難を詩にし歌い、その言葉はアナトリアの山々に阻まれ、行き来の難しいアレヴィーの諸集落に住む人々を結び付けてきた。そうした古い伝統が残る一方で、今日では新しい歌も生まれている。このレクチャー・コンサートでは、トルコ南東部出身のアレヴィーのウラシュ・オズデミル氏が、第1部でアレヴィーの音楽について語り、第2部では伝統楽器であるサズやルズバを演奏し、歌う。

アレヴィーは、音楽を多用する独特の宗教儀礼「ジェム」が、今日、民族音楽研究において世界的に知られている。写真右上と下はジェム・エヴィ(「ジェムの家」)での儀礼の様子。

## ウラシュ・オズデミル(写真右、話と歌・演奏)

1976年生まれ。音楽家で民族音楽学者。トルコ南東部に位置するマラシュに生まれ、アレヴィーとしてその伝統に親しむ。1990年代後半から2000年代にかけてはトルコで少数派・少数民族の音楽を扱うことで有名なカラ・ミュージックの仕事に携わり、現在はイスタンブール大学付属音楽院で教鞭をとる一方で、アレヴィーの音楽に関して研究を続け論文を執筆。多くの著名な演奏家とも共演し、共演者にはアレヴィーのアーシュクとして名高いデルトリ・ディヴァニやイランにおけるクルド音楽の大家アリー・アクバル・モラディーなどがある。作曲家として映画音楽にも携わるなど、多方面で活躍している。

(写真下:イスタンブールでの儀礼の様子。)



(写真上:マラティヤ地方の村にある古いジェム・エヴィでの儀礼の様子。)

